

## 従業員数

図表20 従業員数(日本企業)

調査数	100.0 (197社)
<b>【常用従業員数】</b>	
300名未満	8.1
300～499名	31.0
500～999名	29.4
1000名以上	29.0
無回答	2.5

注)日本企業質問票問2の回答である。

従業員数(ドイツほか外資企業)

調査数	100.0 (117社)
<b>【常用従業員数】</b>	
300名未満	23.9
300～499名	5.1
500～999名	9.4
1000名以上	57.3
無回答	4.3

注)外資系企業質問票問3の回答である。

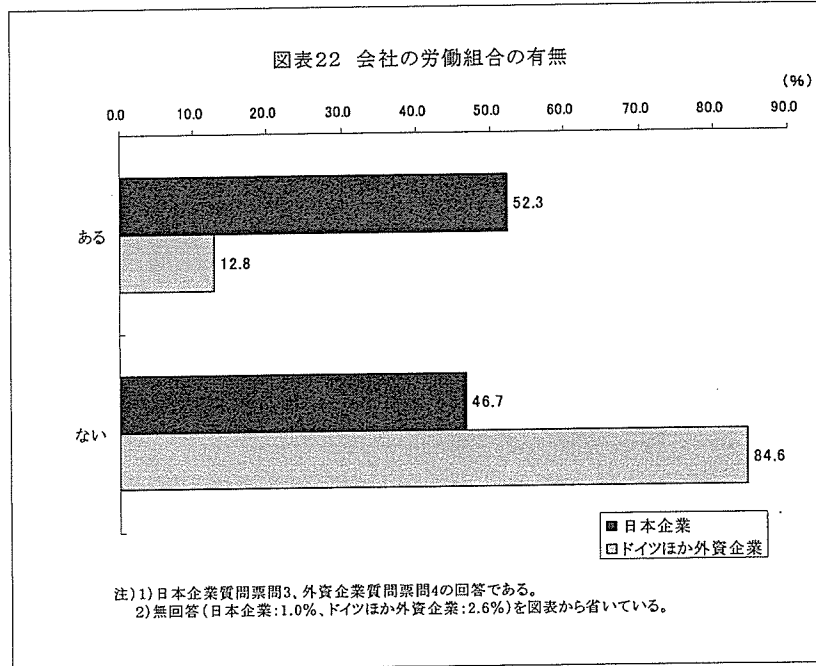
## 外資企業の親会社国籍

図表21 親会社の国籍  
(ドイツほか外資企業)

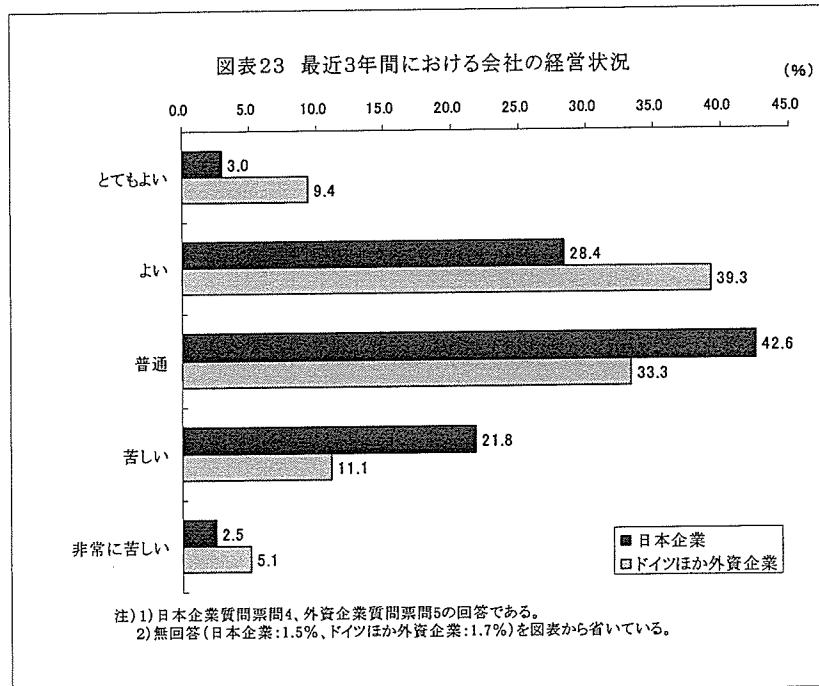
調査数	100.0 (117社)
<b>【親会社の国籍】</b>	
オーストリア	-
ベルギー	0.9
カナダ	1.7
デンマーク	0.9
フランス	9.4
ドイツ	19.7
ギリシャ	-
アイスランド	-
アイルランド	-
イタリア	1.7
ルクセンブルグ	-
オランダ	3
ノルウェー	-
ポルトガル	-
スペイン	-
スウェーデン	1.7
スイス	7.7
トルコ	-
イギリス	6.0
アメリカ	36.8
日本	0.0
フィンランド	0.9
オーストラリア	-
ニュージーランド	-
メキシコ	-
チェコ	-
ハンガリー	-
ポーランド	-
韓国	2.6
スロバキア	-
無回答	7.7

注)外資系企業質問票問2の回答である。

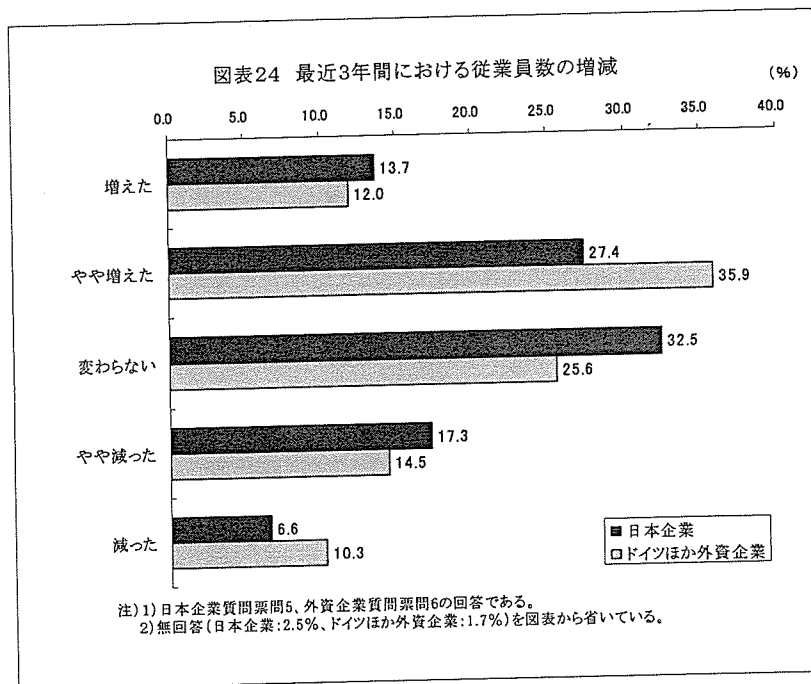
## 労働組合の有無



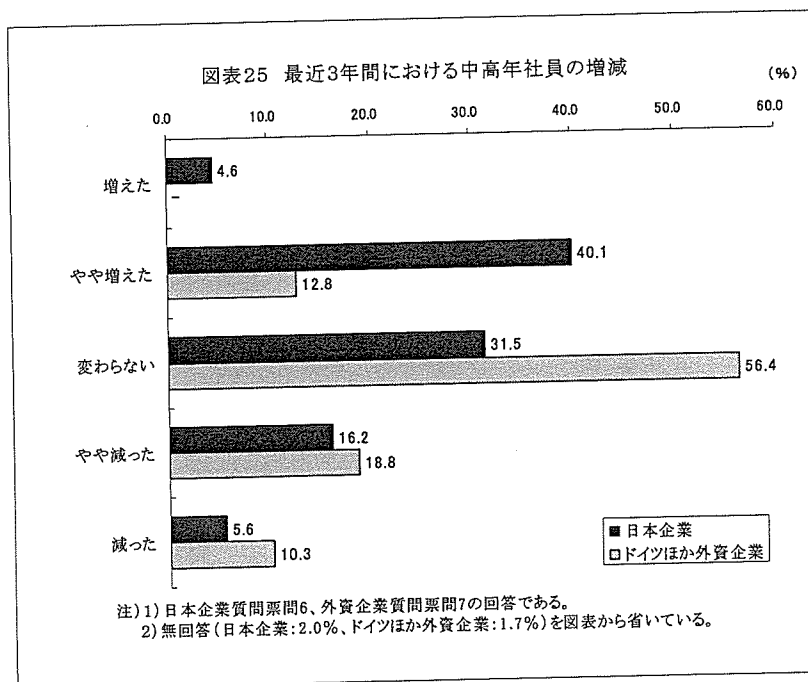
## 業況



## 従業員数の増減



## 中高年従業員の増減



## 2.8 回答者の属性

ここでは回答者の属性を述べる。項目は年齢、性別、役職、勤続年数、外資企業勤務者の外資系企業経験年数、現在の会社への入社経緯とこれまでに勤務した会社数である。

### 回答者の年齢と性別

図表26 年齢(日本企業)

調査数	100.0 (197社)
【年齢】	
50～55歳未満	12.2
55～60歳未満	79.7
60歳以上	6.6
無回答	1.5

注) 日本企業質問票F1の回答である。

年齢(ドイツほか外資企業)

調査数	100.0 (117社)
【年齢】	
44～50歳未満	23.1
50～55歳未満	38.5
55～60歳未満	35.0
60歳以上	3.4

注) 外資系企業質問票F1の回答である。

図表27 性別(日本企業)

調査数	100.0 (197社)
【性別】	
男性	89.8
女性	9.1
無回答	1.0

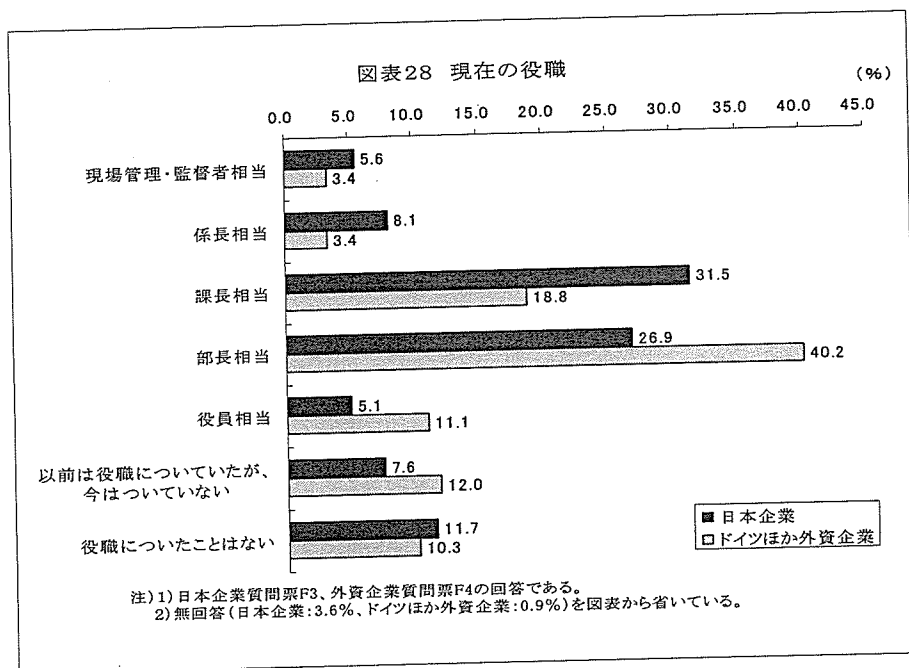
注) 日本企業質問票F1の回答である。

性別(ドイツほか外資企業)

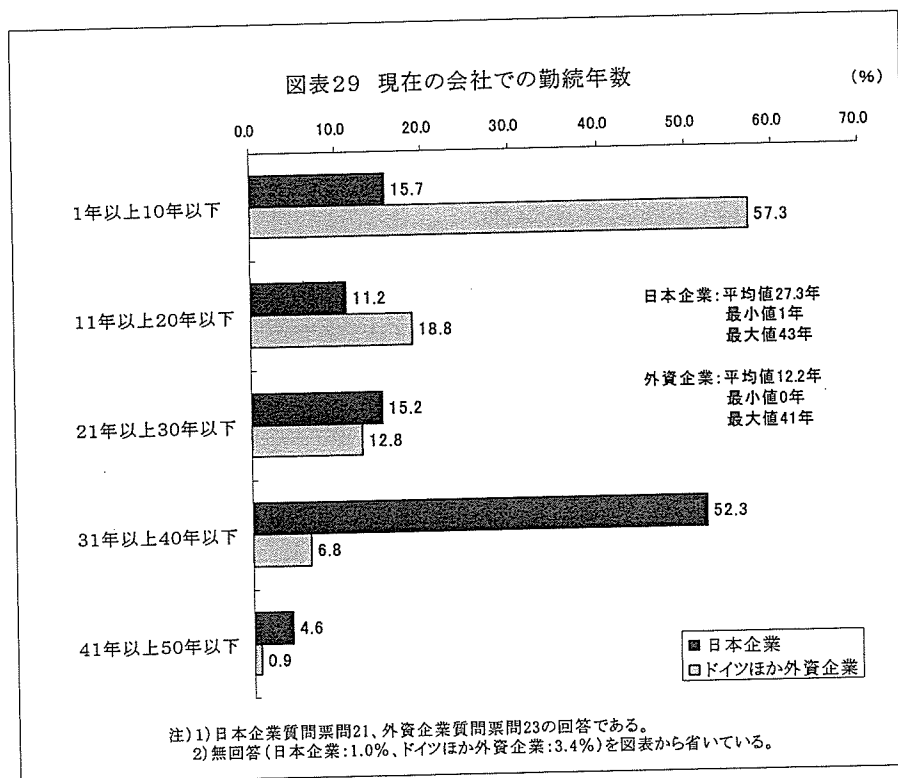
調査数	100.0 (117社)
【性別】	
男性	76.9
女性	23.1

注) 外資系企業質問票F1の回答である。

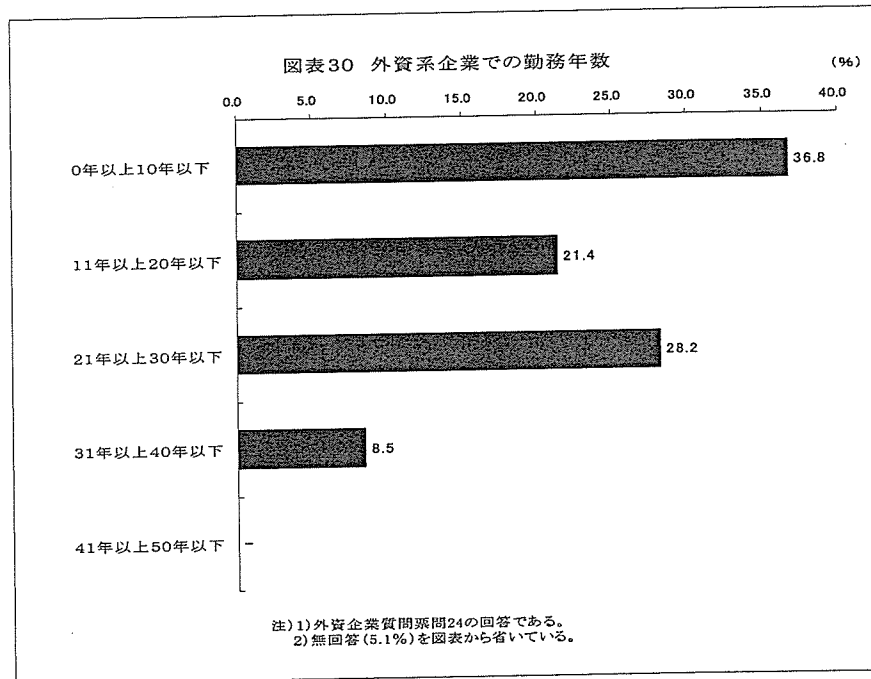
## 役職



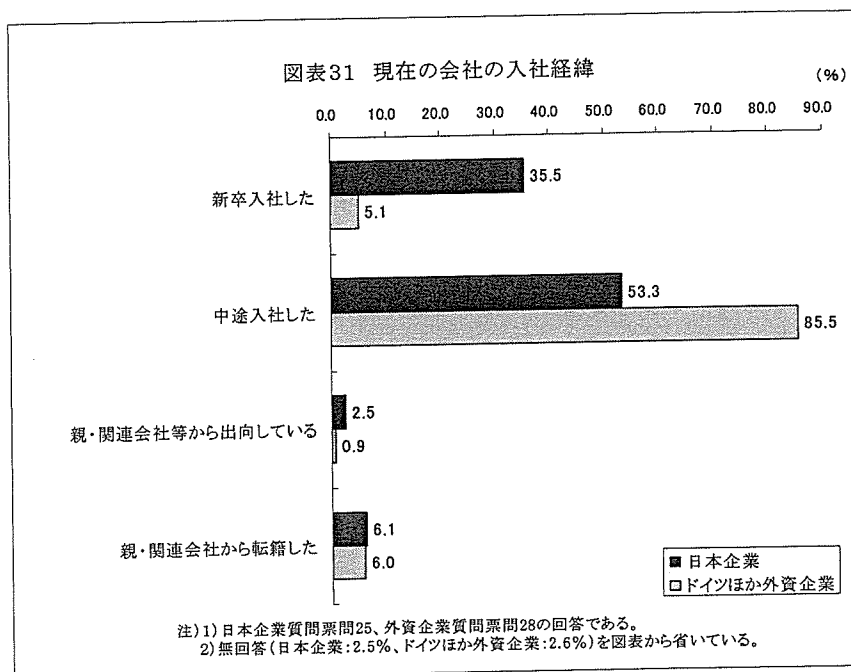
## 勤務年数

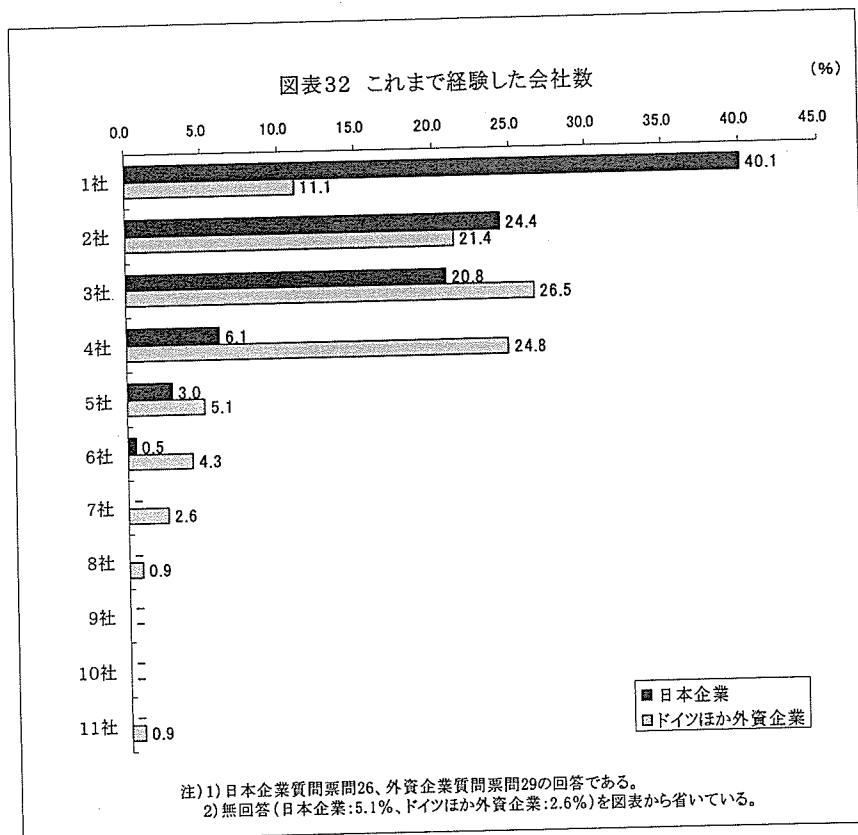


## 外資企業勤務者の外資系企業経験年数



## 現在の会社への入社経緯とこれまでに勤務した会社数





## 2.9 小括

日本およびドイツをはじめとする外国企業の従業員の意識を概観すると、受けてきた人事管理の違いによって、当該者の仕事観や会社観は異なっており、日本の場合には職場の人間関係を重視し、会社組織のメンバーとしての意識が強く、いわゆる組織コミットメントの強さが注目される。他方外国企業の従業員は、組織関係よりは仕事そのものの遂行を重視する、いわゆる職務コミットメントが強いことが指摘できる。こうした仕事や会社に対する志向の違いは、60歳以降の就業行動に影響をもたらしている。

組織コミットメントが強い日本の従業員は、60歳以降も従前の企業での就業継続希望が強く、一方ドイツをはじめとする外国企業の場合には、転職や独立創業を希望する人も多く、必ずしも従前企業で働き続けたいとは思っておらず、実際には早期に引退していく傾向にある。つまり両者の置かれている状況を簡約す

るならば、日本の場合はこれまでに築いた組織関係を60歳以降も維持しようとし、外国企業の場合には、60歳以降も継続させたいと考えるほどの組織関係はなく、職場の人間関係も日本に比して希薄と推察される。

だが両従業員がともに、60歳以降も働きたい理由として、年金への不安や家族の生活への心配を挙げているにもかかわらず、両者とも引退後の年金受給額や総資産の算出は行っておらず、具体的な生活設計を立ててはいない場合が多い点は注目すべきことである。経済的理由から働く必要があるとしてはいるが、実際には引退後の経済生活をほとんど把握しておらず、したがって一般的に懸念されるような年金と雇用の空白期間の問題よりも、日本の従業員にとっては、自分と自分が所属する／していた組織との関係こそが高齢期における最重要課題であり、一方ドイツをはじめとする外国企業の従業員にとっては、働きたい理由は、自分の能力を活かすため、また仕事そのもののやりがいのためであると推察される。しかし外国企業従業員は職場の人間関係の問題から継続就業に至らず、転職独立開業もハードルが高いことから実際には労働市場から退出するケースが多いものと考えられる。

このように見えてくると、日本の労働者の意識は、ドイツをはじめ他国に比して、より強く職場関係に埋め込まれており、そのために職場に身をおき働くことそのものに自らの存在価値を見出す意識が形成されていると考えられる。そのために、諸外国の労働者以上に、日本の労働者にとって定年退職は単に職業からの引退を意味するのではなく、社会における自分の存在意義を問う重い問題であると考えられる。日本の高年齢者の場合には、年金制度や企業の人事・雇用制度のあり方によって、必ずしも高年齢者の就業か引退かの選択が一律に決定付けられるのではなく、働くことに関する特有の意識のあり方が、就業か引退かの選択決定において媒介変数となっていると考えられる。一方ドイツをはじめとする外国企業の従業員の高齢期の就業継続における障害は、職場の人間関係の希薄さから60歳以降も就業を続けることに困難性を感じていること、また本人が望む転職や独立開業を実現することの難しさにあると考えられる。

次年度は、このサーベイ調査のデータを用いて多変量解析を行い、その結果をヒアリング調査の結果と統合し、定量・定性の両面から考察を深める予定である。



### 別添3 資料

「厚生労働科学研究費補助金」  
政策科学推進研究事業調査

2007年2月

## 60歳以降の雇用と仕事・職場に関する意識調査

この調査は、厚生労働省が行う厚生労働科学研究費補助金による、政策科学推進研究事業の一環として行うものです。

現在、厚生年金の支給開始年齢が、高齢化が進んだ国々において引き上げられており、そうした中で、雇用と年金の接続問題が、日本のみならず諸外国においても重要な課題となっております。今回の調査の目的は、60歳以降も働くという選択肢を、皆様がどのようにお考えになっているのか、また「働く」ということそのものを、現在働いている皆様がどのように捉えていらっしゃるのかをおたずねすることです。

ご回答いただいた内容はすべて統計的に処理され、個々の調査結果が他に漏れることは一切ありません。なお研究成果の概要は、後日、厚生労働省ホームページ内の厚生労働科学研究成果データベース (<http://mhlw-grants.niph.go.jp>) (閲覧システムに「雇用と年金の接続」とご入力ください) でご覧いただけます。

ご多用のところ誠に恐縮でございますが、調査研究の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力くださいますようお願い申し上げます。

### 【ご記入にあたってのお願い】

1. 本調査は、55歳以上の方（該当者がいない場合は50歳以上の方）がご回答くださいますようお願いいたします。
2. 特に指定がない限り、2007年2月1日現在でお答えください。
3. ご回答は、質問内容にしたがって、番号に○もしくは数字や文字をご記入ください。
4. できる限りご記入いただきたいと思っておりますが、空欄があっても結構ですのでご返送ください。
5. ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です）にて、

2007年3月12日（月）までに

ご投函くださいますようお願いいたします。

6. 調査についてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

(株)サーベイリサーチセンター 社会調査事業部 担当：諦乗(たいじょう)、藤沢  
Tel: 03-3802-6716 Fax: 03-3802-6738 E-mail: taijo\_m@surece.co.jp  
敬愛大学経済学部 担当：高木 E-mail: t-takagi@u-keiai.ac.jp

## I. あなたが勤務する会社について

問1 会社の業種は。(主要な事業1つに○)

- |                  |              |              |
|------------------|--------------|--------------|
| 1. 建設業           | 2. 一般機械器具製造業 | 3. 電気機械器具製造業 |
| 4. 輸送用機械器具製造業    | 5. 精密機械器具製造業 | 6. 2～5以外の製造業 |
| 7. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 8. 情報通信業     | 9. 運輸業       |
| 10. 卸売・小売業       | 11. 金融・保険業   | 12. 不動産業     |
| 13. 飲食・宿泊業       | 14. サービス業    | 15. その他      |

問2 常用従業員数は。(1つに○)

- |                 |                 |              |                 |
|-----------------|-----------------|--------------|-----------------|
| 1. 299人以下       | 2. 300-499人     | 3. 500-999人  | 4. 1,000-2,999人 |
| 5. 3,000-4,999人 | 6. 5,000-9,999人 | 7. 10,000人以上 |                 |

問3 あなたの会社には労働組合がありますか。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問4 最近3年間におけるあなたの会社の経営状況についてお答えください。

- |          |       |       |        |           |
|----------|-------|-------|--------|-----------|
| 1. とてもよい | 2. よい | 3. 普通 | 4. 苦しい | 5. 非常に苦しい |
|----------|-------|-------|--------|-----------|

問5 最近3年間における従業員数の増減についてお答えください。

- |        |          |          |          |        |
|--------|----------|----------|----------|--------|
| 1. 増えた | 2. やや増えた | 3. 変わらない | 4. やや減った | 5. 減った |
|--------|----------|----------|----------|--------|

問6 最近3年間における中高年社員の増減についてお答えください。

- |        |          |          |          |        |
|--------|----------|----------|----------|--------|
| 1. 増えた | 2. やや増えた | 3. 変わらない | 4. やや減った | 5. 減った |
|--------|----------|----------|----------|--------|

問7 あなたの勤務先のある都道府県は・・・( )都・道・府・県

問8 あなたの会社は、経営方針として、どちらかといえばどのようなことを重視してきたと思いますか。次にあげる項目ごとにあてはまるものに○をしてください。

	A	Aに近い	ややAに近い	ややBに近い	Bに近い	B
a)	投資収益率 (ROI)	1	2	3	4	新製品やサービスの開発
b)	株価の上昇や企業の市場価値の向上	1	2	3	4	既存事業の強化による市場占有率
c)	業務のアウトソーシング化	1	2	3	4	新規事業への積極的進出
d)	製品やサービスの他社との差別化	1	2	3	4	製品やサービスのコストダウン

問9 あなたの会社は、人事管理についてどのようなことを重視してきたと思いますか。次にあげる項目ごとに○をしてください。

	どちらかといえば重視してきた	どちらともいえない	どちらかといえば重視してこなかった
a) 自己申告や社内公募など個人の意向に配慮した人事異動	1	2	3
b) 会社より個人の意向を優先した教育訓練や能力開発	1	2	3
c) 人事考課の基準や査定結果などの人事情報の公開	1	2	3
d) 仕事の分担や役割・権限の明確化	1	2	3
e) 必要人材の内部育成	1	2	3
f) 社員の雇用維持	1	2	3
g) 高年齢者社員の再雇用などによる活用	1	2	3
h) 非正規（パート・アルバイト）や外部人材（派遣・請負）の活用	1	2	3
i) 新卒者の積極的採用	1	2	3
j) 中途入社者の積極的採用	1	2	3
k) 社員が転職したり独立開業するための支援	1	2	3
l) 社員が仕事と家庭生活の調和をはかるための支援	1	2	3
m) 退職準備プログラムや生涯生活設計セミナーなどの充実	1	2	3

問10 最近3年間における人事評価や処遇方法について、あなたの会社ではどのような変化がありましたか。次にあげる項目ごとにあてはまるものに○をしてください。

	はい	いいえ	以前からそうであった
a) 社員間で賃金格差が拡大した	1	2	3
b) 昇進・昇格の差をつける時期が早まった	1	2	3
c) 年齢・勤続年数よりも成果・業績を重視するようになった	1	2	3
d) 一部の社員の選抜育成や抜擢人事が行われるようになった	1	2	3

## Ⅱ. 60歳以降の雇用について

問11 あなたの会社では、60歳以降の雇用のためにどのような取り組みを行っていますか。（主たる取り組み1つに○をし、必要に応じて数字をご記入ください。）

1. 定年到達後の再雇用制度もしくは勤務延長制度がある	
2. 定年年齢が60歳より上に一律に引き上げられている⇒定年は	<input type="text"/> <input type="text"/> 歳
3. 定年制がない⇒社員の方々は、平均すると何歳くらいで引退していますか	
一般社員	<input type="text"/> <input type="text"/> 歳
上位管理職	<input type="text"/> <input type="text"/> 歳
4. 必要に応じて個別に契約が交わされている	
5. 特に行っていない	
6. わからない	

問12 あなたは60歳以降も収入のある仕事を続けたいですか。

1. はい (→問14へ)

2. いいえ (→問13へ)

問13 60歳以降、仕事を続けたくない理由は。(あてはまるものすべてに○)

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 貯蓄や財産収入で生活できるから     | 2. 年金や退職金で生活ができるから      |
| 3. 親などの介護があるから         | 4. 趣味やボランティアなどの活動をしたいから |
| 5. 従来知識・技能が通用しなくなったから  | 6. 健康に自信がないから           |
| 7. 仕事から解放されて気楽に過ごしたいから |                         |
| 8. その他(具体的に: _____)    |                         |

(→問19へ)

問14 (問12で「1. はい」と答えた方へ)

60歳以降も仕事を続けたい理由は。(あてはまるものすべてに○)

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 自分の知識・技能を活かすため    | 2. 後進の指導・教育のため        |
| 3. 自分の健康のため          | 4. 友人や仲間がいるから         |
| 5. 仕事が好きだから          | 6. 会社が好きだから           |
| 7. 社会への貢献のため         | 8. 会社への貢献のため          |
| 9. 仕事以外にやることがないから    | 10. 自分の存在意義を確かめるため    |
| 11. 家には自分の居場所がないから   | 12. 地域社会には自分の居場所がないから |
| 13. 家族の生活安定のため       | 14. 年金だけでは老後の生活が不安だから |
| 15. その他(具体的に: _____) |                       |

問15 あなたは60歳以降も現在の会社で継続して働きたいですか。

1. はい (→問17へ)

2. いいえ (→問16へ)

問16 60歳以降、現在の会社で継続して働かない理由は。(あてはまるものすべてに○)

- |                                      |                    |
|--------------------------------------|--------------------|
| 1. 自分のやりたい仕事ができないから                  | 2. 余剰扱いされそうだから     |
| 3. 職場の雰囲気や人間関係がよくないから                | 4. 継続雇用後の賃金が安すぎるから |
| 5. 継続就業後の働き方(身分、勤務時間・勤務場所)に納得がいかないから |                    |
| 6. 職場に前例がないから                        | 7. 家業を継ぐ予定だから      |
| 8. 他の会社に転職したいから                      |                    |
| 9. 独立開業したいから                         |                    |
| 10. その他(具体的に: _____)                 |                    |

→(上記で8、9に○をつけた方へ) 転職または独立開業の見通しは立っていますか。

- |                |              |                   |
|----------------|--------------|-------------------|
| 1. ほぼ見通しが立っている | 2. どちらともいえない | 3. まったく見通しが立っていない |
|----------------|--------------|-------------------|

(→問18へ)

問17 (問15で「1. はい」と答えた方へ) 継続雇用の希望を会社に出しましたか。

1. すでに会社側に継続雇用の希望を出した
2. まだ出していないが、今後希望を出す予定である
3. 今後も希望を出す予定はない

→ (上記で1、2に○をつけた方へ) 実際に雇用される可能性はどのくらいあると思いますか。

1. ほぼ確実に雇用される
2. 確実とは言えないが雇用される可能性は高い
3. 雇用される可能性はあまり高くない
4. 雇用される可能性はほとんどない

問18 具体的には、あなたは何歳くらいで収入のある仕事から引退したいと考えていますか。

1. 61～65歳
2. 66～70歳
3. 働けるうちは働き続けたい

問19 職業からの引退プロセスとして、あなたが理想とするのはどのタイプですか。(1つに○)

1. 60歳以降もフルタイムで働き、ある時点で引退する
2. 60歳以降もフルタイムで働き、その後短日・短時間勤務に切り替え、ある時点で引退する
3. 60歳以降からは短日・短時間勤務で働き、ある時点で引退する
4. 50歳代から短日・短時間勤務に切り替え、60歳前後で引退する
5. 年金等の受給により経済的に困らなくなった時点で引退する
6. 50歳代で早期引退する
7. その他(具体的に: )

問20 60歳以降も現在の会社で働き続ける場合、①最も希望するのはどのような働き方ですか。また、②最も可能性が高いのはどのような働き方ですか。次にあげる項目ごとにあてはまるものに○をしてください。

	① 最も希望する働き方 (それぞれ1つに○)	② 最も可能性が高い働き方 (それぞれ1つに○)
a) 就業形態	1. 正社員      2. 嘱託・契約社員 3. パート・アルバイト      4. 派遣社員 5. その他( )	1. 正社員      2. 嘱託・契約社員 3. パート・アルバイト      4. 派遣社員 5. その他( )
b) 勤務時間	1. フルタイム      2. 短日・短時間 3. 在宅勤務      4. その他	1. フルタイム      2. 短日・短時間 3. 在宅勤務      4. その他
c) 勤務場所	1. 60歳前と同じ職場 2. 60歳前と異なる職場 3. 子会社・関連会社 4. その他( )	1. 60歳前と同じ職場 2. 60歳前と異なる職場 3. 子会社・関連会社 4. その他( )
d) 仕事内容	1. 現在と同じ仕事 2. 現在とは異なる仕事	1. 現在と同じ仕事 2. 現在とは異なる仕事
e) 年収 (賃金に年金等の受給額を合わせたもの)	1. 現在の年収とほぼ同じかそれ以上 2. 現在の年収の7割程度 3. 現在の年収の5割程度 4. 現在の年収の3割程度以下	1. 現在の年収とほぼ同じかそれ以上 2. 現在の年収の7割程度 3. 現在の年収の5割程度 4. 現在の年収の3割程度以下

### Ⅲ. あなたのお仕事と職場について

問 2 1 現在の会社での勤続年数は・・・   年

※あなたが親・関連会社から出向・転籍している場合は、親・関連会社での就業期間も含めてください。

問 2 2 あなたが①現在担当しているお仕事、②これまでに経験してきたお仕事、③これまで最も経験年数が高いお仕事、④自分が最も自信を持っているお仕事はそれぞれどのお仕事ですか。次にあげる項目ごとにあてはまるものに○をしてください。

	①現在担当しているお仕事 (1つに○)	②これまでに経験してきたお仕事 (あてはまるものすべてに○)	③これまで最も経験年数が高いお仕事 (1つに○)	④自分が最も自信を持っているお仕事 (1つに○)
1. 専門的・技術的な仕事 (研究者、技術者、設計者、教員、 弁護士、医療専門職など)	1	1	1	1
2. 情報関連の仕事 (情報技術、情報処理、SE、 情報システム開発、など)	2	2	2	2
3. 管理的な仕事 (役員、監査、経営企画など)	3	3	3	3
4. 事務関係の仕事 (総務、人事、経理、広報、調査、 秘書など)	4	4	4	4
5. 営業・販売関係の仕事 (営業、販売員、外交員など)	5	5	5	5
6. 保安関係の仕事 (警備員、守衛など)	6	6	6	6
7. 運輸・通信関係の仕事 (運転、通信、集配送作業など)	7	7	7	7
8. 生産工程・労務作業関係の仕事 (製品組立、加工、修理、工務、 建設作業、清掃など)	8	8	8	8
9. その他 ( )	9	9	9	9

問 2 3 問 2 2 の「③これまで最も経験年数が高いお仕事」についてお答えください。

このお仕事の通算経験年数は・・・   年

問24 問22の「④自分が最も自信を持っているお仕事」についてお答えください。

(1) あなたの知識・技能は、同業他社でも通用すると思いますか。

1. 十分通用する	2. ある程度通用する	3. あまり通用しない	4. 全く通用しない
-----------	-------------	-------------	------------

(2) もし同業他社に転職した場合、あなたの賃金はどうなると思いますか。

1. 上がる	2. 同じ	3. 下がる
--------	-------	--------

問25 現在の会社にはどのような経緯で勤めはじめましたか。(1つに○)

1. 新卒入社した	2. 中途入社した
3. 親・関連会社等から出向している	4. 親・関連会社等から転籍した

問26 これまでいくつの会社を経験しましたか。・・・   社

※たとえば2回転職している方は「3社」となります。親・関連会社間の出向・転籍は数に含めません。

問27 あなたの職場には、どのような雰囲気があるとお思いですか。次にあげる項目ごとにあてはまるものに○をしてください。

	ある	少しある	あまりない	ない
a) 部下や後進を育てようという雰囲気	1	2	3	4
b) 社員同士が競い合っているような雰囲気	1	2	3	4
c) ゆとりを持って仕事をしている雰囲気	1	2	3	4
d) 仲間と協力して仕事をしようという雰囲気	1	2	3	4
e) 一人ひとりの能力を活かそうという雰囲気	1	2	3	4
f) 会社の経営理念や哲学を大切にしようという雰囲気	1	2	3	4

問28 あなたの職場では、最近3年間でどのような変化がありましたか。次にあげる項目ごとにあてはまるものに○をしてください。

	はい	いいえ	以前から そうであった
a) 短期的な成果や業績を求められるようになった	1	2	3
b) 職場の結束力は薄れ、個人主義的な雰囲気が強まった	1	2	3
c) 機会があれば転職や独立開業しようという人が増えた	1	2	3
d) 仕事ができる人とできない人の差が顕著になった	1	2	3
e) 職場の働く意欲やモラルが低下した	1	2	3



問29 あなたのお仕事に対する姿勢についておたずねします。次にあげる項目ごとにあてはまるものに○をしてください。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう 思わない	そう思わ ない
a) 人一倍努力してもいい仕事がしたい	1	2	3	4
b) 仕事をしている時に最も充実感を感じる	1	2	3	4
c) 自分は今の職場にすっかり馴染んでいる	1	2	3	4
d) 上司の指示であれば仕事の内容に執着しない	1	2	3	4
e) 会社の発展のために私生活を犠牲にすることもありえる	1	2	3	4
f) 中長期的な自分のキャリアプランを持つことが大切だ	1	2	3	4

問30 あなたの仕事観、会社観についておたずねします。次にあげる項目ごとにあてはまるものに○をしてください。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう 思わない	そう思わ ない
a) 現在の会社でこれからも働き続けたい	1	2	3	4
b) 転職もしくは独立開業したい	1	2	3	4
c) 自分は会社への忠誠心や所属意識が強いほうだ	1	2	3	4
d) 会社名や社内での地位が自分の励みになっている	1	2	3	4
e) 今勤めている会社の採用はかなり難しいほうだ	1	2	3	4
f) 自社の経営理念や哲学には共感すべきところが多い	1	2	3	4
g) 会社は社員の生活を長期にわたって保障すべきだ	1	2	3	4
h) 会社とは雇い雇われるだけの関係だ	1	2	3	4
i) 採用や人事はその人の人格を重視して決めるべきだ	1	2	3	4
j) 賃金や職位は能力によって差がつくべきだ	1	2	3	4
k) 残業をしている人が多いと、仕事が終わっても帰りにくい	1	2	3	4
l) 同僚や部下が忙しい時は、自分に関係のない仕事でも手伝う	1	2	3	4
m) 職場以外でも上司や同僚、部下との付き合いを大切にする	1	2	3	4
n) 会社や職場の行事には気が進まなくても参加する	1	2	3	4
o) 仕事のためならば多少は自分の時間を犠牲にしてもやむをえない	1	2	3	4
p) 会社のためならば多少は自分の時間を犠牲にしてもやむをえない	1	2	3	4
q) 仕事より家庭が大事である	1	2	3	4
r) 会社と自分とは運命共同体である	1	2	3	4
s) 会社以外に地域社会との付き合いを広げておくことが大事だ	1	2	3	4
t) 会社以外に夫婦や子供など家族との絆を密にすることが大事だ	1	2	3	4

問31 あなたはご自分のお仕事についてどのようにお考えですか。次にあげる項目ごとにあてはまるものに○をしてください。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらかと いえばそう 思わない	そう思わ ない
a) 自分にとって今の仕事は天職である	1	2	3	4
b) 自分の仕事に誇りを持っている	1	2	3	4
c) 今の仕事にやりがいや生きがいを感じる	1	2	3	4
d) 今の会社に誇りを持っている	1	2	3	4
e) 今の会社に満足している	1	2	3	4
f) 今の会社では手ごたえのある仕事ができる	1	2	3	4
g) 今の仕事は自分の能力・適正にあっている	1	2	3	4
h) 自分の仕事は専門的な知識や技能が必要とされる仕事である	1	2	3	4
i) 自分の仕事は独自の創造性を必要とされる仕事である	1	2	3	4
j) 自分の賃金は同業他社で同じ仕事をしている人より高い	1	2	3	4
k) 自分の職位は同業他社の同年齢の人より高い	1	2	3	4

問32 あなたのお仕事について、次にあげる項目ごとにあてはまるものに○をしてください。

	A	Aに近い	ややAに近い	ややBに近い	Bに近い	B
a)	仕事の計画や遂行は、 <u>自分ひとり</u> です ことが多い	1	2	3	4	仕事の計画や遂行は、 <u>職場の人と一緒に</u> することが多い
b)	<u>会社内の</u> 人的ネット ワークを活用する ことが多い	1	2	3	4	<u>会社外の</u> 人的ネット ワークを活用する ことが多い
c)	職場では、 <u>人間関係の</u> 維持を重視している	1	2	3	4	職場では、 <u>仕事の完遂</u> を重視している
d)	仕事上の諸問題は、 <u>人間関係から</u> 生じる ことが多い	1	2	3	4	仕事上の諸問題は、 <u>仕事の特性から</u> 生じ ることが多い
e)	<u>自社独自の</u> ノウハウ の維持や伝承すべき スキルを習得する ことが大切だ	1	2	3	4	<u>他社でも活用できる</u> 汎用性の高い能力や スキルを習得するこ とが大切だ
f)	専門分野で必要な <u>スペシャリストとして</u> の能力やスキルを習 得することが大切だ	1	2	3	4	管理職に必要な <u>ジェネラリストとして</u> の能力やスキルを習 得することが大切だ

## IV. 60歳以降の生活について

問33 あなたは職業から引退した後の生活設計を具体的に立てていますか。(1つに○)

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 社会保険労務士やファイナンシャルプランナー等の専門家に相談している |
| 2. 会社の生涯生活設計セミナーや退職準備プログラムなどを受講している  |
| 3. 自分達で総資産や年金受給額等を試算して、概ねの生活設計を立てている |
| 4. 具体的には特に立てていない                     |
| 5. その他(具体的に: _____)                  |

問34 あなたは、①60歳以降も働き続けた場合の賃金や勤務形態等の労働条件、また②引退した場合の退職金や企業年金の受給額について、具体的にご存知ですか。

	①60歳以降の労働条件 (1つに○)	②退職金や企業年金の受給額 (1つに○)
1. 会社側から説明を受け、知っている	1	1
2. 説明は受けていないが、だいたい知っている	2	2
3. 今は知らないが、今後説明を受ける予定である	3	3
4. 知らない、会社側から説明を受ける予定もない	4	4

問35 あなたは、①公的年金の受給額、また②公的年金の満額受給年齢について、具体的にご存知ですか。

	①公的年金の受給額 (1つに○)	②公的年金(満額)の受給年齢 (1つに○)
1. 会社側から説明を受け、知っている	1	1
2. 説明は受けていないが、自分で調べて知っている	2	2
3. 社会保険労務士などに相談し、知っている	3	3
4. 行政機関から通知が来たので、知っている	4	4
5. 今は知らないが、今後説明を受ける予定である	5	5
6. 知らない、説明を受ける予定もない	6	6

問36 あなたが60歳になる頃に、介護が必要なご家族がいる可能性はありますか。

- |         |           |           |           |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 現在いる | 2. 可能性は高い | 3. 可能性は低い | 4. ほとんどない |
|---------|-----------|-----------|-----------|

問37 あなたが60歳になる頃に、扶養義務のあるお子さんがいる可能性はありますか。

- |            |           |           |           |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 1. ほぼ確実にいる | 2. 可能性は高い | 3. 可能性は低い | 4. ほとんどない |
|------------|-----------|-----------|-----------|

問38 あなたが60歳になる頃に、住宅ローンの返済はどのようになっていると思いますか。

- |                   |                  |                |
|-------------------|------------------|----------------|
| 1. 60歳以降も残っている    | 2. 60歳までに終わる     | 3. 現在すでに終わっている |
| 4. 住宅ローンを組んだことがない | 5. その他（二世帯ローンなど） |                |

問39 60歳以降の収入についておたずねします。

(1) どのような収入で暮らすご予定ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |               |                         |                 |
|---------------|-------------------------|-----------------|
| 1. あなたの賃金収入   | 2. 配偶者の賃金収入             | 3. 子供の賃金収入      |
| 4. 自営業などの事業収入 | 5. 財産からの収入（家賃・利子・配当金など） |                 |
| 6. 貯蓄の取りくずし   | 7. 子供や親戚からの仕送り          | 8. 公的年金（厚生年金など） |
| 9. 企業年金       | 10. 個人年金（生命保険等の積み立てなど）  |                 |

(2) 上記で○をつけたなかで、主たる収入はどれになると思いますか。番号をご記入ください。

60歳以降の主たる収入・・・( )

## V. フェイスシート

F1 あなたの年齢と性別についておたずねします。

年齢 ( ) 歳	性別	1. 男性	2. 女性
----------	----	-------	-------

F2 あなたの学歴についておたずねします。

1. 中学卒	2. 高校卒	3. 短大・高専・専門学校卒	4. 大学卒	5. 大学院卒
--------	--------	----------------	--------	---------

F3 現在のあなたの役職は。

1. 現場管理・監督者相当	2. 係長相当	3. 課長相当
4. 部長相当	5. 役員相当	
6. 以前は役職についていたが、今はついていない		7. 役職についたことはない

F4 あなたの現在の健康状態はいかがですか。

1. とても良い	2. 良い	3. あまり良くない	4. 良くない
----------	-------	------------	---------